

【鮎川村】の部活動改革の取組み

自治体の現状と課題

鮎川村の総人口は3,592人と10年前と比較し、54%減少しており、若年者比率は8.9%と減少傾向にある一方、高齢者比率は4割を超えており、中学校生徒数も10年前の131人から90人と68.7%減少しており少子高齢化が進んでいる。

中学校においては、教員の定数も限られており、部活動の専門的な指導体制が難しい状態となっている。このような中でも、生徒の多様なニーズに応えたスポーツ機会の確保や今後の地域スポーツ活動の新たな体制の構築を図るために、令和3年度から地域展開に向け総合型地域スポーツクラブを運営主体として実証事業を行っている。結果、部活動の一部を地域展開し、それに伴い教員の部活動や部活動に伴う業務に従事する時間が約50%削減（令和6年度実績）するなど一定の成果が出た。

一方で、地域展開を進めていくうえで以下の課題が顕著になってきた。

- ・クラブ活動を行う際のスクールバスの利活用
- ・クラブとして活動するための財源の確保
- ・近隣市町村との広域的な活動を進めるうえでの市町村間の壁
- ・平日も含めた部活動の地域展開を見据えた持続可能な体制の構築

地域クラブ活動等の概要

中学校数	鮎川中学校	全生徒数	90人
域内の部活動数	4部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ NPO法人さけがわ友遊クラブ		
主な種目	軟式野球、バレーボール、バドミントン		
平均的な活動回数	12回/月	年間平均参加生徒実数	3年：21人/クラブ 2年：15人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	3,000円/年	主な活動場所	鮎川中学校

地域展開関連の取組・成果

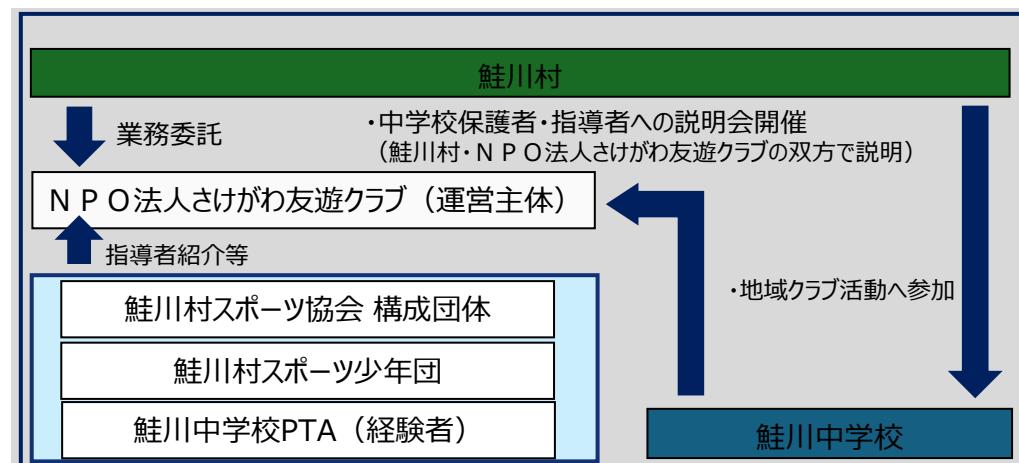
令和3年度から鮎川中学校、教育委員会、NPO法人さけがわ友遊クラブが連携し、部活動の地域展開を実施してきた。令和6年度からは、将来的な受益者負担を見据え年間3,000円の活動費の徴収を行い、新たな取り組みとしてコーディネーターを配置し、学校・顧問・各団体の指導者・保護者のヒアリングを行った。これまでには、アンケートの実施や説明会などの中で、意見の集約してきたが、コーディネーターによるヒアリングを実施したことにより、それぞれの立場の思いを直接聞くことができた。

また、令和6年9月には最上地区の担当者が一堂に会し意見交換を行ったことで、今後は最上地区の広域的な活動が必要不可欠であることを再確認した。広域的な活動の展開をするための新たなしきみの構築に向けた協議を継続的に行っていくことが大切となる。

令和6年度までの実証事業を踏まえ、令和7年度は村独自予算で地域クラブに対し補助の形で実証事業として実施した。移行完了後の持続可能な形での取り組みを行い、保護者負担・公的支援の課題を検討している。

実証事業を踏まえ、休日のみならず平日の部活動の地域クラブ移行を進めていくとともに、広域的な連携の仕組みづくりを模索していく。

運営体制図



【鮎川村】の部活動改革の取組み

活動の様子



【野球クラブ】



【バレーボールクラブ】



【バドミントンクラブ】



鮎川村部活動地域移行検討会委員
グループワーク実施状況